

## 先見性のヒントはユーザーの呟きにある

トラクター前部に取り付けて土木作業に使う「フロントローダー」の分野で、設立以来35年以上にわたって国内シェアのトップを走り続ける企業に商品開発の取り組みや、新規分野へのチャレンジについて聞く。

### 業界をリードする商品に隠された秘密とは？

軽土木作業に威力を発揮する「フロントローダー」は、トラクターの前面に取り付けて使う油圧式積み込み装置だ。三陽機器株式会社（小室幸朗社長）は現在、この分野で国内シェアの8割近くを占める。しかも会社設立以来ずっと、トップの座を守り続けている。

設立当時、フロントローダーの輸入品はトラクターから取り外しできないタイプだった。そうした状況下で、同社は国産化に初めて成功しただけでなく、1971年には取り外し可能なローダーを開発し、一気に売り上げを伸ばした。

企業の先見性について営業部長の寺前公平氏は語る。「国産化は

国内需要を見越した取り組みでした。また、着脱できるローダーの開発に乗り出したのは、ユーザーの意見を聞くために全国を回った際、利便性を求める声が多かったからです。ヒントはユーザーの声の中にあります。小さな「呟き」を把握し、どれだけ商品開発へ生かせるかが重要だと思います」

### 現在・未来に受け継がれる歴代経営者の理念

同社は、油圧分野に強みを持つ技術者たちを中心に設立。ベンチャー企業の大先駆けと言える、技術重視の創造開発型企業」としての理念は、当時から連綿と継承されている。農業機械の市場規模が縮小しつつある中、既存の技術を活用することで、新たな市場の開拓も視野に入れる。空調機の室外機を取り付ける際に使う簡易リフト。以前は焼却されていた樹木や粉殻を、環境への配慮からリサイクル処理できるようにした機械。油圧と電気を組み合わせた制御技術は、様々なジャンルの商品開発に応用されているようだ。

### 「創造」「革新」の精神で「ふんばれる」企業人

こうした事業活動は、企業姿勢の表れだ。同社は商品の製造を外部委託し、企画・設計・販売に特化している。その上でユーザーのニーズを具現化し、改良を重ねながらノウハ

### COMPANY DATA

本社所在地：岡山県浅口郡里庄町  
 設立：1966年  
 従業員数：90人  
 事業内容：農業機械、油圧機器、省力化機械の創造開発・製造販売を手掛けている。



ウを蓄積する。失敗の苦い経験からも次へつながる「何か」を得ようとする。この姿勢は「よるこばれる」という企業理念や、クリエーション（創造）とイノベーション（革新）の造語である経営方針「クリエーション」からもうかがえる。「商品がユーザーからよるこばれることは社員のためにもありますが、常識にとらわれぬ一人ひとりが、常識にとらわれぬ創造力を持って挑戦していく意識が大切です」。寺前氏は、企業が求める人材像をそう説明する。

企業が商品を市場に出す際、常に一歩先の展開まで考えておく意識が必要だという。トップシェアを誇る同社は、どのような「今後」を見据えているのだろうか。

